

ホームページへの掲載

2月25日掲載

岐阜県立東濃高等学校

学 校 長 平井 学

学校住所 可児郡御嵩町御嵩 2854-1

TEL0574-67-2136 fax0574-67-6204

ホームページ <http://school.gifu-net.ed.jp/tono-hs/>

- 1 会議の名称 平成26年度 第2回学校評議員会 (岐阜県立東濃高等学校)
- 2 会議の構成

委 員	渡邊 剛	御嵩町ボランティア「輝き隊」代表
	藤井 真弓	主婦
	落合 亨子	御嵩町伏見児童館厚生員
	黒田 晃司	東海化成工業株式会社人事総務部長
	安江 弘子	東濃高等学校 PTA 会長
学校関係者	平井 学	校 長
	早野 稔	教 頭
	井藤 勝夫	教務部長
- 3 会議の目的 本校の教育活動について各委員に提言及び助言を求め、もって今後の学校運営の参考とするなど、本校教育の発展に資することを目的とする。
- 4 会議の開催 平成27年2月19日(木) 13:30~15:00
岐阜県立東濃高等学校 会議室
委員4名と学校関係者3名出席
- 5 会議の概要 ①授業参観
②生徒意見発表
③平成26年度の学校教育活動の報告と次年度の課題
④意見交流

会議資料

- (1) 会議レジュメ
- (2) 平成26年度各分掌の成果と次年度の課題
- (3) 平成26年度「学校評価」の結果(集計結果と分析)
- (4) 掲載新聞記事

授業参観

- ・ 1・2年生の授業を参観した。
- ・ 「少人数指導」や「外国籍生徒の学習の様子」を参観した。

生徒意見発表

- ・ 3年生の生徒2名より、東濃高校の3年間を振り返った意見発表を聞く。

〔Aさん〕

- ・ 自分の時間をつくることができ、歴史の勉強やボランティア活動に取り組むことができた。また、仲間とのかかわりも強く、ロボコン部や様々な検定に挑戦する人、外国籍生徒など、頑張る仲間から良い影響を受けた3年間であった。先生方からも親身になって支援いただけるので、学校がとても楽しい場所であった。

〔Bさん〕

- ・ 生徒会長として、仲間に支えられ、文化祭やボランティア活動、生徒会交流会を成功させることができた。スタートした頃は、自分に責任が果たせるか不安であったが、生徒会執行部の協力や先生方からのご指導もあり、今は、「少しは人のために役立てたのかな」と思えるまでになった。

(1) 生徒意見発表を聞いて

① 各委員より

- 意見1 発表を聞いて、東濃高校での3年間は自分と向き合う3年間であったことが感じ取れました。お二人とも、しつかりとした目標を持ち、仲間のために自分にできることは何かを真剣に考えられました。素晴らしいと思います。
- 意見2 話を聞いていて涙が出ました。卒業されるみなさんが立派に成長されたことに感動しました。
- 意見3 成長した自分と悩んだ自分の経験を大切に、3年間のドラマを持って卒業して欲しいと思います。

(2) 各分掌の成果と次年度の課題について

(3) 学校評価について

- 意見4 親として、子どもを3年間東濃高校に通わせて、本当に良かったと思っています。勉強も大切ですが、東濃高校で学んだ3年間で人として大きく成長させてもらいました。
- 意見5 東濃高校では、外国籍生徒との共生が柱になっていますが、外国籍生徒と一緒に学校生活を送ることができるということは大変有意義であると感じました。様々な文化に触れ、「互いに学べる」「互いが高め合う」関係にあると思

います。さらに東濃高校の良い点は、PTA活動が盛んで、あいさつ運動や文化祭バザー、強歩大会の給水活動など、保護者が生徒を支える良い関係にあります。こうした生徒を支える良い環境が今の東濃高校の安定につながっているように思います。

意見 6 生徒指導の反省で遅刻者が多いということでしたが、現在、勤務している会社では、毎年20名ほど新規採用しています。そのうち1～2名の者が遅刻が多いという理由で辞めていきます。遅刻することで周りの人に迷惑をかけたり、給料をもらっているのだからと厳しい指導ができます。高校では、社会に出て働くということを今以上に意識させ、生活させる必要を感じました。

意見 7 英語の授業を参観させていただきました。ALTの先生が活躍される場面でしたが、全て英語で進められる授業は英語力が育つように感じました。東濃高校では、外国籍生徒との共生や演劇表現ワークショップによるコミュニケーション能力の育成などに取り組まれていることから、“日本語力を身に付ける”ことや“自分から伝える”ことの重要性が生徒に伝わっているように思います。今後も東濃高校の特色として推進していただきたいと願います。

6 会議のまとめ

委員の皆様のあたたかい眼差しに触れ、本当に東濃高校のことをしっかりと見守っていただいているのだと感激しました。

学校が落ち着いていることに甘んずることなく、地域に愛され「無くてはならぬ学校」として全職員が尽力していきたいです。